VOICE!VOICE!VOICE!

秋田浩一監督

「うれしい。２連覇するのはとても難しいこと。よくやったと思う。今日の試合展開は苦しかった。点が入ってからはうちのペースだったが、そのまえからそういうプレーが出来ないようじゃダメ。速さとか準備の面でまだまだだと思います。相手も研究していただろうけどそれに打ち勝つぐらいでないとトップチームにはなれない。駒大はまだまだ弱いです。」

中田洋介主将（4年／MF）

「苦しんで勝ってきたんでうれしさがおおきい。おととし、同じ舞台で阪南に負けていたんでリベンジという気持ちは強かったですね。特に自分はミスから得点を入れられてたんで。実感はまだまだ沸いて来ませんね。準決勝では試合中の PK を外してしまってみんなに迷惑をかけたんで今日はプレーで頑張ろうと思いました。とりあえず、次は秋のリーグなんで頑張っていきたいです。」

田中信成（4年／MF）

「パッとしません(苦笑)。前半、俺がむこうのダブルボランチをもっと潰せていれば良かったんですけど。バーに直撃するシュートも何本かあったし僕らはツイてたと思います。まだ、これは実力で勝ったと思ってないし、インカレでまた阪南とやって今度はしっかりと駒大サッカーをして勝ちたいと思います。昨年はインカレを取ってないんでリーグ戦をとってインカレをとりたいですね。」

牧野利昭（2年／GK）

「チームのモチベーションは最高でした。ここまできたら優勝しなきゃ意味がないって。ＰＫ戦は余裕でしたよ。笑ってましたからずっと。まぁ、落ち着くためにぶつくさ一人で言ってましたけど(笑)。今日は自分が出て優勝できたんでそれはとても嬉しい。ちょっと泣きましたもん。２連覇は凄いの一言。監督のサッカーの凄さじゃないかなと思います。」

[上]主将としてチームを引っ張った中田(上)が試合後、胴上げされるシーン
［右］ベンチもＰＫ戦は緊張の連続。祈っている選手も
［左］選手たちがベストを出せたのも影で支える主務、マネジャーがいたからこそ

おととしのリベンジ果たした！！

阪南大に先制されるも、赤嶺の起死回生ゴールで追いつく

7月13日　14:00　長居スタジアム

駒大（関東第4）**1**（0－1、1－0、0－0、0－0）**1**（6PK5）**阪南大**（関西第1）

得点者(アシスト)

【阪】26分:大西容平2(安部雄二郎2)
【駒】69分:赤嶺真吾2(橋本早十1)

PK戦経過（○内は背番号）

【駒】1⑥○2⑪○3⑧○4⑨○5⑤×6④○7⑱○
【阪】1⑭×2⑥○3⑤○4⑧○5⑪○6⑰○7⑳×

KOMAZAWA	HANNAN
GK①牧野利昭(2)	GK①梅村芳生(4)
DF②桑原　靖(2)	DF②大杉誠人(3)
DF⑤鈴木祐輔(3)	(103分⑤南　明宏(4))
DF④小林　亮(3)	DF④深谷友基(3)
DF⑬筑城和人(1)	DF⑥川口健二(4)
MF⑥中後雅喜(3)	DF③旗手真也(2)
MF⑩橋本早十(4)	MF⑰加納慎二郎(4)
(82分⑫永井健太(4))	MF⑭梁　勇基(4)
(100分⑪関　光博(3))	MF⑫大西容平(3)
MF⑧中田洋介(4)	MF⑧竹村　伸(1)
MF⑦田中信成(4)	FW⑬安部雄二郎(3)
FW⑲原　一樹(1)	(79分⑳尾花和人(4))
(74分⑱巻　佑樹(1))	FW⑩長峯弘起(2)
FW⑨赤嶺真吾(2)	(67分⑪永末圭祐(4))
S　U　B	S　U　B
GK㉑蒲原隼一郎(1)	GK㉑山口夏希(3)
DF③栗原建次(3)	DF㉜正原弘誠(2)
DF㉔廣井友信(1)	MF30松岡亮輔(1)
MF⑰岩本哲也(3)	FW⑦松浦敦史(3)
MANAGER	MANAGER
秋田浩一	須佐徹太郎

警告(C)／退場(S)

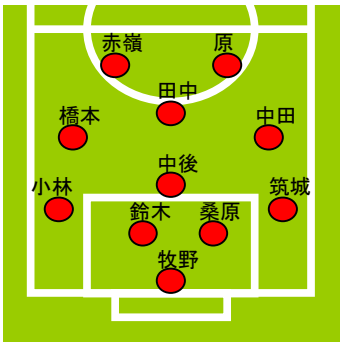
【駒】30分:田中信成(C)、55分:中田洋介(C)、80分:桑原靖(C)
【阪】13分:川口健二(C)、42分:長峯弘起(C)、88分:大西容平(C)、104分:尾花和人(C)

[シュート]12:9[枠内シュート]5:6[決定機]2:5
[GK]12:21[CK]8:4[PK]0:0[直接FK]21:17[間接FK]2:4
[OS]2:4[主審]金子　聡一郎[観衆]約3000人

※上記データは全て左側の数字が駒澤。枠内シュート、決定機は本誌記者による記録です

［左］貴重な同点ゴールをあげた赤嶺(右)。今大会でひとまわりおおきくなった［右］あわやＰＫという場面もあったが桑原(左)はこの日高いカバーリング能力を見せ付けた！

基本フォーメーション



目のＰＫを止め、一昨年の雪辱を晴らす優勝。**牧野**を囲んで歓喜の輪が広がった。

「苦しんで勝った分、嬉しさがすごく大きい」（**中田**）。超攻撃的サッカーを展開し余裕で優勝した昨年に比べると１回戦から苦戦を強いられてきた今大会。勝利に導いたのは延長戦そしてＰＫ戦に及んでも途切れなかった選手たちの「勝ちたい」という気持ちだった。また、今大会ではディフェンダー陣が成長を見せた。失点はわずか１。「去年は**深井**、**巻**っていう強力２トップがいて、その二人の力があったから勝てたっていう部分で歯がゆさがあった」（**小林**）。その歯がゆさを見事払拭してみせた。

試合後、後期について尋ねると誰一人としてこの優勝に慢心している者はいなかった。「これが最終目標じゃない」（**鈴木**）。「優勝したことは忘れて一から頑張る」（**橋本**）。選手たちのその姿勢は「駒大の躍進はまだまだ続く」そう予感させてくれた。後期はリーグ戦、インカレ、そして天皇杯が控えている。今大会でひとまわりもふたまわりも成長した駒大の